

## 食のみやぎ復興ネットワーク「被災地に寄り添う ふるまい企画」

### みやぎ生協 10 店舗で「ふるまい企画」を実施

東日本大震災から 1 年以上が経過し、多くの人々が復旧復興に向け懸命に努力しています。

「食のみやぎ復興ネットワーク」は、被災地の人々に寄り添い、元気づけることで復旧復興の手助けをしようと6月9日・10日・12日の3日間、被災地域や仮設住宅に隣接するみやぎ生協10店舗（※1）で「被災地に寄り添う ふるまい企画」（以下ふるまい企画）を実施しました。

「ふるまい企画」をいっせいに開催するのは今年の3月に続いて2回目です。今回は6月12日の「宮城県民防災の日」にタイミングを合わせ、開催しました。メーカーやベンダーなど36社が参加し、試食・試飲や商品サンプル配布を行なったほか、カレーライス、お好み焼き、しじみ汁、おにぎり、餃子などの料理をふるまいました。

ネットワーク事務局の藤田孝さん（コープ東北サンネット店舗商品部）は、「1年を経過してあらためてネットワークとして被災地に寄り添っていくことの大切さを実感している」と言います。

食のみやぎ復興ネットワーク（※2）では、生産者団体・メーカー・ベンダー・生協が連携して、宮城の新しい特産物を育てるプロジェクトに取り組んでいます。今回の「ふるまい企画」は、その連携による力を地域社会貢献活動へと発展させたものです。

「ネットワークに参加している方々は被災地を支援したいという思いを持っています」。今回も前回も、ふるまい企画への協力依頼に即座に「協力します」の回答がありました。

「こうした形で被災地支援に関わることができて嬉しい」と言ってくれることに、藤田さんは深く感謝しています。

「ふるまい企画を、地域社会貢献の場として捉えていただく団体さんも多いです」と藤田さん。「ここで生まれたつながりを次に繋げていって、これからも一緒に被災地に寄り添っていければと思います」。

### ◆ふるまい企画を通じて被災地の力になりたい

12日（火）、石巻市の蛇田店では9時開店と同時にオリーブオイル小瓶を先着500名にプレゼントする企画が始まりました。オリーブオイルを使った鶏肉の香草パン粉焼きの試食も一緒にすすめると、大勢の組合員さんが足を止め、「このオリーブオイルで焼いたの？美味しいね」と興味を示します。オリーブオイルを提供したJ-オイルミルズさんは、食のみやぎ復興ネットワークの発足当初からの会員。昨年11月には大代店で天井500食をふるまい、喜



J-オイルミルズさんの協力で、500本のオリーブオイルを店内で提供した。

ばれました。「今回はカレーのふるまいがあるということだったので、当社はお持ち帰りいただける物と思い、オリーブオイルの小瓶にしました」と担当の小山曜(こやま・あきら)さん。「これからも被災地に寄り添う企画を通じて定期的に商品を提供しようと思っています」。

11時からは駐車場にしつらえた屋外テントで、エスビー食品さんによるカレーのふるまいが始まりました。「カレーを召し上がりませんか」の呼びかけに「おいしそうだね、いただいでいくっちゃ」と笑顔で応える組合員さん。たちまち行列ができました。

エスビー食品は3月にも石巻大橋店でカレー300食を提供しました。担当の大町政幸(おおまち・まさゆき)さんは、震災直後に石巻に入り、大きな被害を受けた生協の店舗を心配していました。それだけに、「スーパーもほとんど被災して開いていない中、石巻大橋店がいち早く営業を再開したときは本当に嬉しかった」と言います。「大震災から1年以上経ちますが復興はまだまだです。こうした企画をこれからも続けていって、少しでも被災地の力になりたいと思います」。



エスビー食品さんの協力で、  
店外のテントでカレーライスを提供した。

被災地の現状をつねに肌身で感じている蛇田店の伊藤店長は、「石巻はいま震災直後のダメージからようやく脱出し、本当の意味で長い復興に入った時期。ふるまい企画などの支援に対しても、メンバーさんのニーズは我々が思っている以上に大きい」と話していました。

6月12日が「宮城県民防災の日」になっているのは34年前のこの日、夕方17時14分に宮城県沖地震が発生したからです。しかし去年の震災は34年前の恐怖をはるかに上回るもので、とくに津波の被害を受けた人々の傷は容易に癒えることはありません。

「1年間は泣くヒマもなかった」と話すS・Sさんは夫を震災で喪いました。津波でヘドロだらけになった家を一人で片付けました。「1年経ったころ蛇田店に来て声をかけられ、その時初めてボロボロ泣きました」。以前は石巻大橋店を利用していたSさんですが、震災後はまだ行くことができません。「大橋店は川の近くにあるから…。海も川もおっかなくて近づけないの」。でもね、と言葉を継ぎ、「私よりひどい人がまだいっぱいいるから」と他人を思いやります。涙をにじませながらも「カレーはしばらくぶり。孫が来た時につくるぐらいで、こういう機会でもないと思えない。おいしいね」と笑顔を見せてくれました。

「蛇田店とは古い付き合い」と言うH・Hさんは、買い物に来て偶然ふるまい企画があることを知りました。「こういう風にふるまわれて食べるカレーは特別おいしいのよね」と喜びます。

M・Mさんは津波で被害を受けた自宅をリフォームして住んでいます。今日は車で蛇田店

へ。ふるまい企画に「こうやってボランティアに来てくれるのって、本当にありがたいよねえ」と目を細めていました。